

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

不老山ー縁起にあやかってー

不老山(蘇峰台から)



11月下旬、丹沢山塊西南端、神奈川・静岡県境の山・不老山(928m)に出かけた。縁起の良い山名にあやかり、老年仲間(老年を認めたがらない輩たち)を誘い合つての登山である。

小田急新松田駅からのバスを棚沢キャンプ場前で下り、河内川を吊り橋で渡った所に登山口がある。朝9時。老人(?)登山に最高の小春日和である。

茶畑を縫う道を進み、キジの養殖場の裏手の梅林を抜けたところから、樹林帯の中の登りが始まる。ゆるやかなジグザグ登り。10時45分、番ヶ平の稜線上に飛び出し、後は広い尾根道のどかな散歩となる。矢倉岳や箱根の連山が良く見える。林道を横切った辺りから植生が雑木からスギに変わり、11時40分、苦もなく不老山山頂に到着した。



不老山山頂

殆どない。日差しを楽しみながらの昼食タイム。奇特な老年氏が担いで来た生ぬるい缶ビールが回ってきた。これも老年を認めたがらない輩の仕業。

12時15分出発で山頂を西に5分程進み、県境尾根との分岐点(不老山南峰の標識あり)に出ると突然展望が開けた。正面に真っ白に雪を

まとった富士山、その裾から右へ御正体山などの道志の山々がくっきりと見えた。しばしのカメラタイム。

後は、県境尾根を直路、駿河小山へと下った。



不老山南峰から望む富士山

富士山を右手に見ながら、几帳面な等勾配のなだらかな下り道がどこまでも続く。オシャベリを楽しみながらの散歩にもいい加減飽きた13時半が下降分岐点。ここからも、送電線見回り路に沿って尾根筋を忠実にたどりながらどんどん下降し、中島貯水池ダム下に到着したのが14時。

放水路を渡った後は、舗装された車道をテクテク歩いて14時20分、金時公園に到着した。

金太郎の生家跡とかで、公園の奥が坂田金時を祭神とした金時神社となっており、ともあれお賽銭をあげて神妙にお詣りをした。

金時公園からJR駿河小山駅へは小山町の町並みを歩いて約30分。電車を待つ間、駅前で、無事の下山と一同の不老を祝して、今度は良く冷えたビールで乾杯した。



県境尾根



金時公園